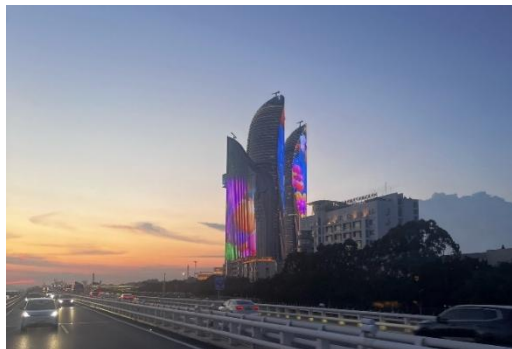


Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



2025 FALL 発行



留学中のみなさんから、中間レポートが届きました!



外国留学中間レポート 2025 FALL

目次

ウィーバー州立大学（アメリカ）	3
経済学部経済学科 4年	3
ウィーバー州立大学（アメリカ）	4
文学部英語英米文学科 3年	4
フォートルイスカレッジ（アメリカ）	5
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	5
フォートルイスカレッジ（アメリカ）	6
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	6
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	7
文学部英語英米文学科 3年	7
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	8
経済学部経済学科 2年	8
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	9
経営学部経営学科 3年	9
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	10
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	10
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	11
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年	11
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	12
グローバル教養学環 2年	12
ビクトリア大学（カナダ）	13
グローバル教養学環 2年	13

カールトン大学（カナダ）	14
グローバル教養学環 2年	14
リーズ大学（イギリス）	15
文学部社会科学 2年	15
ライプツィヒ大学（ドイツ）	16
グローバル教養学環 2年	16
東義大学（韓国）	17
知能情報学部知能情報学科 3年	17
東義大学（韓国）	18
経済学部経済学科 2年	18
東義大学（韓国）	19
経営学部経営学科 3年	19
厦門大学（中国）	20
グローバル教養学環 2年	20
東海大学（台湾）	21
グローバル教養学環 2年	21

ウィーバー州立大学（アメリカ）

経済学部経済学科 4年

【ダブルディグリープログラム】留学期間：2024年8月～2026年4月



私は現在、ウィーバー州立大学に留学をして国際経済学を中心に幅広い分野を学んでいます。ダブルディグリープログラムが2年目に入ってから約2ヶ月以上が経ち、長い4ヶ月間の夏季休暇によって生じた生活リズムの乱れを直すことができました。加えて、英語による専門的な議論にも自身が付いたことによりアメリカでの授業にすっかり慣れました。前の学期とは違い初めて上級科目を受講することから授業のスピードについていくことが非常に大変でし

たが、教授やチューターのサポートを受けながらなんとか乗り越え続けることができています。生活面では普段の寮生活に加え、週末はホームビジットをしているのですが、受け入れてくれている家族との繋がりは、学業面でも精神面でも大きな支えとなっています。家族はとても温かく、食事や自宅に誘ってくれたりし、その日の出来事や国際ニュースについて英語で話し合うのが習慣になっています。最初のうちは自分の意見を英語で的確に伝えることが難しく苦戦しましたが、家族が根気強く聞いてくれたおかげで、会話力が確実に向上しました。休日には一緒にハイキングや地域のイベントに参加し、アメリカの文化を体験しています。こうした日常的な交流を通して、語学力だけでなく異文化理解も深まり、自主的に行動する力が身につきました。



学業面では、マクロ経済学、国際政治、イギリス帝国などの科目を履修しています。マクロ経済学は、生産モデルを基礎に、資本（K）と労働（L）がどのように結びついて経済全体の生産（Y）を生み出すのかを学びました。特にコブ＝ダグラス型生産関数を用い、規模に関する収穫一定の概念や限界生産逓減の法則を数式で分析しました。さらに、ソロー成長モデルを通して、貯蓄率・人口成長率・技術進歩が経済成長に与える影響を理解し、長期的な成長には生産性の向上が不可欠であることを学びました。「黄金律水準の資本（Golden Rule）」など、社会全体の幸福度を最大化するための理論的条件も扱い、理論と政策の関係を考察しています。国際政治の授業では、マイケル・マンデルバウム、ケネス・ウォルツ、ダニエル・デュードニー、アレクサンダー・ウェントという四人の政治学者の理論を学んでいます。それぞれの著書を読み、彼らの国際秩序観や安全保障理論が現代の国際情勢をどこまで説明できるのか、また限界はどこにあるのかを考察しています。例えば、ウォルツの構造的リアリズムを現代の多極的国際社会に照らし合わせたり、ウェントの社会構成主義的視点を国際協調の文脈



で検討したりするなど、理論を実際の国際政治に応用する訓練を重ねています。これにより、単なる理論理解にとどまらず、国際関係を多面的に評価する力が身につけてきました。2年目の留学を通して、知識だけでなく、自分で考えて行動する力や、異なる文化の中で柔軟に対応する姿勢がより練り上げられました。これからの期間は、授業はもちろんのこと、地域での活動により積極的に参加し、異文化理解をより深めていきたいと考えています。

ウイバー州立大学（アメリカ）

文学部英語英米文学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年4月



アメリカでの留学生活が始まって、早くも1カ月以上が経ちました。留学先のウイバー州立大学があるユタ州は、自然でいっぱいです。大学の周りには山が連なり、最近では、山の草木がオレンジや黄色に色づいてとても綺麗です。朝にハイキングに出かけて、ユタ州の自然を感じることもできました。また、スポーツ観戦もとても盛んです。私は、ローカル野球の観戦と、アイスホッケーの観戦をしました。

大学の授業は、想像以上に変です。文学の授業を履修しているのですが、日本の授業とは全く異なるスタイルに、初めはとても戸惑いました。毎週何十ページも出されるリーディングの課題や、授業中、静かになる時間がないほど活発なディスカッションについていくことが特に難しいです。予習や復習のため、日本にいた時とは比べものにならないくらい机に向かっていきます。です

が、新しい文学作品に出会うことで、今まで知らなかった発見も多く、大変な中でも楽しんで学ぶことができます。私は自炊ができるタイプの寮に住んでいます。2人でバスルームを共有し、4人でキッチンを使うタイプの寮です。寮生活では思ってもいなかった問題に直面しました。バスルームを一緒に使うルームメイトから耐え難いほどの臭いが漂い、自分の部屋にいるのが辛いほどでした。この問題を解決するために、相手を傷つけないよう配慮しながら、どう英語で伝えればいいのか何度も考え、話



し合いをしました。この経験を通じて、自分の意見をしっかりと伝えることの重要性を感じ、困難を乗り越えることで得られるコミュニケーションの力を学ぶことができました。ユタ州の食べ物で一番おいしいと思ったのは、メキシコ料理のブリトーです。ユタ州はメキシコ料理が盛んで、色々なところにメキシコ料理店があります。寮の中で友達とタコスを作ったりもしました。日本ではあまり馴染みのなかったメキシコ料理ですが、今は好んで食べるほど好きになりました。



今やっと、授業にも慣れ、生活が安定してきました。この約1カ月半を振り返り、自分の意志を持って自分から行動することの大切さを痛感しています。今後はこの学びを活かし、勉強も大切ですが、それだけにとどまらず、ここでしか得られない貴重な経験をできるだけ多く積んでいきたいです。

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年
【交換留学】留学期間：2025年8月～2025年12月

交換留学生として Fort Lewis College に来てから1か月半が経ちました。振り返るとあっという間でしたが、あと2か月という残された留学期間も意識しながら何事にも全力で取り組んでいます。

Fort Lewis College はアメリカのコロラド州のデュランゴという町にあり、ロッキー山脈に囲まれたすごく自然豊かな大学です。キャンパス内ではシカやリスなどが生活をしており、歩いていると前を通ることがよくあります。私は、ここに来てから毎日自然に癒されながら、ハンモックに寝転んで映画を観たり、ベンチに座ってタスクをこなしたりしています。少し前に友達と友達のホストファミリーと一緒にピクニックをしました。ちょうど葉の色が緑から黄色に変わる時期で、ベンチから見える山の景色がすごく綺麗でした。

私は、Intro Gender & Sexualit、World Civilization II、Nature and Human Health、Cross-Cultural Management の4つの授業を履修しています。どの授業も学生が意見を言う機会が



多く、教授のレクチャーだけではなく様々な視点からの意見を聞くことができるのもすごくいいなと感じています。まだ今の私は、教授の話や他の学生の話も100%理解できるまでには至っていません。また、ディスカッションでも自分の意見を言えないときの方が多いです。ですが、新学期が始まってすぐの自分と比べると、理解できる部分が増えたり、分からないことをすぐに聞けるようになったりと英語力や積極性において成長したなと感じています。留学前にやると決めていた、英語で日記を書くことも最近は毎日続けています。自分にとって日記を書くということが息抜きになっているとともに、この濃く短い留学生活について毎日記録できていることが嬉しいです。課外活動では、学期の終わりにあるダンスイベントに出るためのコミュニティに参加しています。私は2つのHIPHOPのショーケースに出るため、毎週日曜日に2つ練習があります。最初は全く知らない人ばかりで緊張していましたが、ダンスがきっかけで仲良くなることができました。

私がここにきて好きだなと思ったことは、知らない人でもすれ違う時に服装や髪型をほめることです。私は「I like your hair.」や「I like your outfit.」と言ってもらえることがあります。私は、周りに合わせた服装ではなく、自分が好きな服装をしていることが多いので、違う文化の人に褒めてもらえると自分自身を肯定してもらえたような気がしてすごく嬉しくなります。個性を出しそれを尊重するという文化はアメリカらしく本当に素晴らしいなと思いました。

アメリカでの留学生活はあと2か月です。ここからどれだけ成長できるかは今の私次第です。日本に帰る際に「来て良かったな」と思えるような経験にしたいと思います。



フォートルイスカレッジ（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年4月



アメリカコロラド州の Durango に到着してから約 1 ヶ月が経過しました。出発時には、フライトがあまりに長いことやイミグレーションが上手くいかなかったこともあり帰国したいと思ったこともありましたが、この地に到着してからは目新しいものを見たり、刺激的な体験ができており、充実した生活を送れているのではないかと思います。まず、Durango の気候や土地についてですが、Durango はとても標高が高いところに位置しており、日差しがとても強く、雨がよく降ります。空気が薄いので、少し運動するだけでもかなり疲れます。なので、日本と大きく異なるその環境に最初は苦労しました。

次に学業面についてですが、現在私はマーケティング、会計基礎、ミクロ経済学入門、マネジメントの授業を履修しています。アメリカの大学といえば、課題が多い、テストが難しいなどといった印象があったのですが、授業によってその難易度や大変さは異なるように感じました。しかし、全ての授業に共通して、真面目に授業や課題に取り組むことでそれなりに満足のいく成績をとることができます。

次に、交友関係については、留学に来る前は、友達を作れるかどうか不安でした。しかし、この大学はフレンドリーな人が多く、規模も大きくないので、すぐに気の合う友人を作ることのできる環境であると思います。現在、特定のサークルや団体には加入してはいないのですが、各サークルでは週 1 回は活動をしているので、それらの活動に顔を出すことで、簡単に自分のことを覚えてもらうことができ、交流を深めることができます。そのため、日本にいる頃よりも友達を作りやすいと思いました。

また、FLC ファミリーコネクションという制度があります。これは、ホームステイをするわけではないのですが、ホストファミリーが留学生を様々な面でサポートしてくれます。実際私は、週末にホストファミリーの方々にハイキングや現地の高校のアメリカンフットボールの試合に連れていただきました。それだけでなく、気軽に留学生活の不安などを相談できたり、いろいろと親切にいただいています。現地の方とコミュニケーションをとることができ、様々な文化体験をさせてもらえるので、この制度を利用して良かったと感じています。

英語に関してはまだまだですが、リスニングの能力は向上しました。肝心なスピーキング能力を上げるためには、ただアメリカにいただけでは不可能だと思うので、これから後半年ほど現地の方々との交流や、常に挑戦をすることを意識して、悔いが残らないように過ごしたいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

文学部英語英米文学科 3年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月

アメリカに来てもうすぐ2か月になります。最初は英語がなかなか聞き取れず、職場の雰囲気にも慣れないため、毎日緊張していました。しかし、少しずつ環境に慣れることで、仕事に対しても心の余裕が生まれてきました。現在はウォルト・ディズニー・ワールドのハリウッド・スタジオにある「Backlot Express」というレストランで勤務しています。

仕事内容は、レジ対応やドリンクの補充、片付けなど多岐にわたります。忙しい時間帯もありますが、同僚と声をかけ合いながら業務を進めているため、大きな不安を感じることなく働いています。リーダーの方々も常に周囲に目を配り、困っている人がいればすぐに声をかけてくれるので、とても心強い環境です。

同僚との関係もとても良好です。休憩中や業務中のちょっとした雑談を通して自然と打ち解けることができ、職場の雰囲気はとても明るく温かいと感じます。来る前は「文化の違いにうまく対応できるだろうか」と強い不安を抱いていましたが、実際に生活してみると皆とてもフレンドリーで優しく、不安はすぐにはなくなりました。

英語力に関しては、リスニングには少しずつ慣れてきましたが、スピーキングはまだ難しく感じています。特にゲストから質問を受けた際に意味は理解できても、自分の言葉でうまく説明できないことが多く、同僚に助けてもらう場面もあります。それでも、日々の業務の中で表現を少しずつ覚え、自信も少しずつついてきました。

生活面では、思っていたほど異文化の壁や治安の悪さを感じることはありません。普段の生活はディズニー周辺や社員寮「Flamingo Crossings Village」が中心で、安全で快適な環境の中で過ごしています。

初めは不安も多かったのですが、実際に来てみるととても充実した日々を送っています。英語に不安があっても、周囲の人がしっかりサポートしてくれるので、安心して挑戦できる環境です。これから残りの期間は、英語での対応力をさらに高め、自分から積極的に行動できるようになることを目標に頑張りたいです。また、職場で多くのことを吸収し、日本に帰ってからこの経験を自分の力として生かせるようにしたいと考えています。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

経済学部経済学科 2年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月



現在私は、アメリカ、フロリダ州にあるウォルト・ディズニー・ワールドのハリウッドスタジオにある Backlot Express というレストランで働いています。私はスピーキングに苦手意識があり、言いたいことを上手く伝えることができず悔しく思うこともあります。私の意図をくみ取ってくれたり、話を広げてくれたりする同僚やゲストのお陰で、もっと話せるようになりたいとモチベーションを上げて仕事をすることができています。「頑張ってね」と声をかけてくださったり、私が日本人だということに気づいて、ちょっとした日本語で話しかけてくださったりするゲストや、日本語を教えてと聞いてきてくれる同僚もいて嬉しく思う一方、もっと流暢に話せて色々な話ができたら良かったと後悔することもあるので、毎回の勤務時のゲストや同僚との関わりを大事にしていきたいです。

今まで約2か月程働いてきて印象に残っていることは、“Magical Moment”を作るということです。“Magical Moment”とは、ゲストに与える特別な経験や思い出

のことを指します。例えば、誕生日だということを示すバッジをつけているゲストが来られた時にカップケーキを渡すことなどが挙げられます。初めは、同僚がしているのを見ているだけでしたが、勧められて私もしてみた時、とても喜び、笑顔で「Thank you!」と言ってくくださったので、私自身もとても嬉しくなりました。そこからは私も率先して“Magical Moment”を作ることを意識しています。寮の部屋はアメリカ人と日本人の4人部屋で、それぞれの仕事があるのであまり関わる機会はありますが、オフの日が重なったときには一緒にパークに遊びに行くことや、リビングルームでご飯を食べながらテレビをみることもあります。寮では、キャラクターグリーティングが行われたり、季節に合わせたイベントなどが毎週行われたりしており、職場以外の人とも仲良くなれる機会なので、積極的に参加したいと思っています。



バレンシア国際カレッジでは、Business Management と Leadership の2つの授業を受講しています。1つの授業は3時間あり長く聞こえますが、聞くだけではなく参加する形の授業なので、一瞬で終わります。コロンビアの学生と一緒に受講しており、たまに行われる先生とコロンビアの学生との議論は面白く、また文化の違いを感じることができて楽しい授業です。

留学が始まって早くも2か月が経とうとしています。想像以上に忙しく、時間の経過をとて早く感じています。そのため残りの期間でどれだけ英語力を向上させることができるのだろうかという焦りを感じていますが、帰国するときに後悔もなく、このプログラムに参加することができて良かったと感じられるよう、仕事や大学を通して日々成長していきたいと思っています。

ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

経営学部経営学科 3年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月



留学開始から早くも2ヶ月が経つことに驚きですが、仕事、学校、買い物、自炊、洗濯などフロリダでの生活にも慣れて来ました。寮ではアメリカ人2人とメキシコ人1人と私を含めた計4人で、ルームシェアをしています。ライフスタイルの違いはもちろんのこと、仕事や学校の時間も全てバラバラですが、リビングで一緒に話をしたり新しい食べ物を共有したりなど、毎日が”新しい”でいっぱいです。英語力の向上はもちろんのこと、生活スキルも身に付けて帰国することが新たな目標です。

8月23日から、Walt Disney Worldでの正式なキャストメンバーとしてのトレーニングが始まりました。最初のロールはmerchandiseとして、EPCOTと呼ばれるパークにあるCreations & Club Coolでの勤務です。トレーニング期間はひたすら自分のリスニング力との戦いで、何が理解できていないのかも分からない状況が続きました。2ヶ月経った現在もまだまだ自分のボキャブラリーの無さに頭を悩ますこともあります。回数を重ねるうちに業務にも慣れ、オンステージでも自信を持って対応できるよう

になりました。温かいゲストの皆さんや他のキャストメンバーのおかげで、のびのびと働くことができます。

また、トレーニングを受けたmerchandiseのロールであれば、他の店舗やパークのシフトもピックアップできるので、可能な限り色々な場所に挑戦中です。最近ではHollywood Studiosの5&10という名前のお店へ出勤しました。そして2週間後には、次のロールであるアトラクションに移ります。新しい環境での勤務は、やはりこれまで以上のプレッシャーを感じると思いますが、一からの学びと人間関係作りにワクワクが止まりません。

毎週木曜日は学校があり、Business ManagementとLeadershipの授業がそれぞれ3時間ずつで構成されています。アメリカの経営学を英語で学べる貴重な機会を、意味のあるものにできるように頑張っています。出勤日や勤務時間は固定ではないため、タイムマネジメントが大変ですが、週一日のオフを利用して買い物や作り置き、旅行などの予定を組み込んでたいへん充実した毎日を送っています。世界中で愛されるWalt Disney Companyに携われていることへの感謝と誇りを忘れずに、残りの留学生活も精一杯努めてまいります。“Make a magic moment”という言葉のスローガンに、多くのゲストを笑顔にしたいです。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月



留学生活が始まり2ヶ月が経ちました。私はこれまで一度も海外に出たことがなく、この留学が初めての海外経験です。出会う人、もの、環境、すべてが初めてで、日本とはまるで違う世界の中で新しい生活がスタートしました。

私はフラミンゴ・クロッシング・ビレッジという寮で4人と暮らしています。部屋とバスルームはアメリカ人のルームメイトと共有しています。最初に苦労したのは料理でした。日本にいたときも自炊はしていましたが、スーパーに行くとすべて英語表記で、当たり前ですが、

お味噌や本だし、みりんなどおなじみの調味料が見当たらず、とても驚きました。さらに、掃除や洗濯、料理、日用品の補充など、すべてを自分で行わなければならず、日本でどれほど家族に支えられていたかを実感しました。

仕事も始まり、5日間の研修を経て、実際にディズニーワールドで働く日々が始まりました。英語での指示が理解できず戸惑うことも多く、質問することすら怖くなった時期もありました。私はこの時初めて自分の英語が恥ずかしい、これ以上英語を話すことが怖いと感じました。最初の1週間、そして1ヶ月はすべてが新しく、人生で一番長く感じるほど濃い時間でした。その中で、日本で一緒に過ごしていた人たちの温かさを改めて感じることができました。



この2ヶ月を通して一番学んだことは、「環境を作るのも、変えるのも自分自身だ」ということです。辛い状況でどう行動するか、逃げるのか、立ち向かうのかを決めるのは自分です。日々の小さな選択や行動が、これからの自分を形づくっていくのだと実感しました。残りの期間もこの学びを大切にし、英語力だけでなく人としても成長できるよう努力していきたいと思います。

ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月



この中間報告書を書くことで、プログラムも折り返しに差しかかっていることに気づきました。私は現在、フロリダ州の Walt Disney World-Hollywood Studios 内にある Backlot Express というレストランで、ゲストに笑顔と幸せを届けています。「何かしてあげたい」という想いを行動に移し、日々“Magic”を生み出しています。

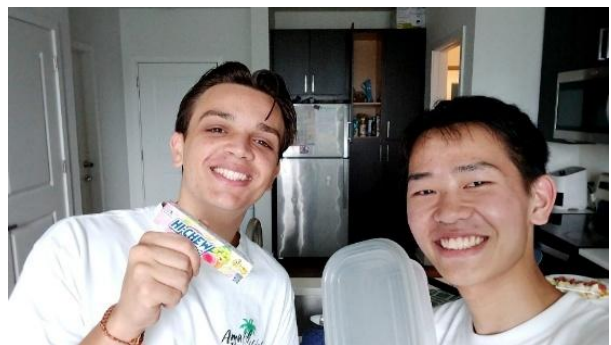
世界で最も多文化な国アメリカ。その中でもトップ企業で働く経験は学びの連続であり、同時に日本の良さを再認識する機会にもなっています。毎日が多忙ですが、外に出て、英語を使う機会となっており、意義のある留学だと強く感じます。

週に五日はディズニーワールドでのインターンシップ、残り二日のうち一日は大学で授業を受け、オンライン授業もあります。バレンシアカレッジでの授業では、ビジネスマネジメントやリーダーシップを中心に学んでいます。20～30秒で自分のビジネスアイデアを伝えるエレベーターピッチをはじめ、ビジネスに必要なスキルを体系的に学び、またディズニーワールドでのマネージャーやリーダーの行動を理論の面から分析する機会もあります。現場での気づきを授業の学びにつなげられており、単なるインターンシップにとどまらず、経験から学び、学びから経験の好循環が生まれています。これにより、実践的で効果的な学習が可能になっています。

生活面では、これまで一人暮らしをしたことのなかった私にとって、両親の偉大さを実感する日々です。常に食事のことを考える必要があり、日本で惰性的に過ごしていた自分に気づかされました。仕事から帰宅して休む間もなく食事を用意してくれていた両親の大変さを、今まさに身をもって体感しています。インターンシップ後に料理をする体力、休日が買い物で終わる日々など、生活の一つひとつの中でそのありがたみを痛感しています。

寮生活では、出会いと別れを繰り返しています。これまでにアメリカ人2人、フランス人、イタリア人と共に生活してきました。特に同室のルームメイトとは、食事をともにしながら互いの国の文化、趣味、将来について英語で語り合いました。清潔感やスケジュールの違いなど、共通点を探す方が難しいほど異なる背景を持つ私たちが、互いをリスペクトし合い、心地よい関係を築く努力をする、その姿勢こそが、相手に合わせた“Magic”を生み出すことにつながっているのではないかと感じています。

もうすぐプログラムも折り返しを迎え、次の配属先のアトラクションも決まりました。残りの期間も、出会いと学びを大切にしながら、一つひとつの経験を自分の成長につなげていきたいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

グローバル教養学環 2年

【奨励留学】留学期間：2025年8月～2026年1月

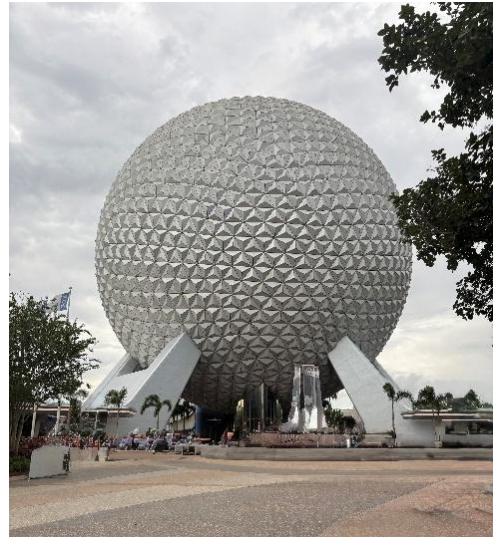
アメリカに来てもうすぐ2ヶ月になります。現在、私はウォルト・ディズニー・ワールドのEPCOT内にある「Connections Eatery」でキャストとして働いています。最初の頃は現地の人たちの話すスピードについていけず、なかなか英語を聞き取ることができませんでした。今もすべてを正確に理解することは難しいですが、少しずつ慣れてきて単語や要点を聞き取って対応できるようになってきました。

職場の同僚はアメリカだけでなく、スペイン、フランス、メキシコ、韓国など世界中から来ており、ネームタグに書かれた出身地や母国語もさまざまです。年齢層も幅広く、私のようにプログラムで参加している学生もいれば、フルタイムで働いている社会人の方もいます。同年代の人たちとは特に仲良くなりやすいですが、社会人の方とも会話をすることが多く、それぞれの国の文化や言葉を仕事の合間に教えてもらっています。私自身も日本語や日本文化について質問されることがあり、文化交流を実感しています。これは留学前からやりたかったことの一つであり、実際に体験できていることがとても嬉しいです。

生活面では、寮で日本人の学生1人とアメリカ人2人の計4人で暮らしています。ルームメイトたちはとてもフレンドリーで、初日から話しかけてくれたり、一緒にパークに行こうと誘ってくれたりしたおかげですぐに仲良くなることができました。言葉の壁や文化の違いはありますが、お互いに教え合いながら楽しく過ごしています。

大学では、リーダーシップとビジネスマネジメントについて学んでいます。1クラス3時間と長いですが、ディスカッションの機会が多くあつという間に時間が過ぎます。専門的な知識というよりも、人の性格や考え方に基いたリーダーシップの在り方を学ぶ授業が多いです。

“The Most Magical Place on Earth”と呼ばれる世界最大のディズニーで働く今、まるで夢のように夢じゃない、そんな不思議な感覚を毎日味わっています。Traditionでネームタグを受け取ったときの「ここから自分のキャスト生活が始まる」というワクワク感は今でも忘れられません。この貴重な経験を無駄にせず、学べることをすべて吸収して自分の成長につなげていきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）

グローバル教養学環 2年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年4月



留学をして一番身に染みたのは日本にいた時の日ごろの行いが留学先でも反映されていることです。私は日本にいたときから内向的と言われる性格で一人の時間を大事にしていました。そのためカナダに来た直後は緊張や使命感のような思いから、現地の方々と話し友達を作ろうとしましたが、生活が落ち着いてくると日本にいた時のような自分に帰ってきました。ですが留学をしてからは、それが少し変わりつつあります。というのも、留学先では私が思っていた以上に自由な時間が多く、その時間をどう過ごすのがとても大きな違いだと思いました。

例えば、週末の過ごし方では、日本ではテレビやゲームなどを家で楽しむことも多かったのですが、カナダでは多くの学生は旅行や飲み会、タウンに行き休日を楽しまします。私は日本にいた際は家で時間を過ごすことが多かったのですが、このような休日の過ごし方は新鮮で少し疲れますが、現地の友達とも仲良くなれ、英語も上達してきています。最近は日常会話で使えるフレーズをメモして、遊んでいる際に言いたかった言葉を覚えておくことで、効率的な英語の勉強ができています。

また、現地の授業への対策はしてきましたが苦戦することが多く、資料を読み返したり、教授の student hour の間に質問し大まかな内容を教えてもらいながら授業を受けています。日本にいた頃に、留学すると環境が変わるから英語も上達すると言われたのですが、こちらに来てその言葉を実感しています。私の大学には親切な方が多く、話しかければ次は向こうから話しかけてくれます。自分から行動することで自信も得られ、日々とても新鮮で楽しく過ごすことができています。

今後は大学の近くだけではなく少し遠出をしてバンクーバーにも行くつもりです。旅行先でも問題なく過ごせるよう、今後も英語の勉強を続けていきたいです。



カールトン大学（カナダ）

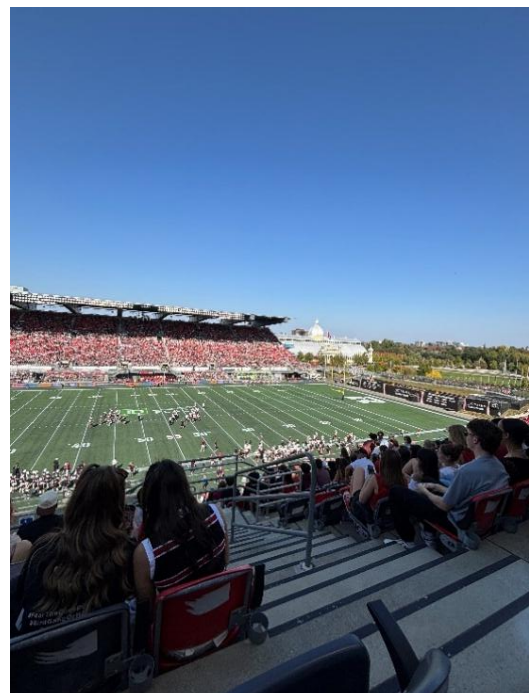
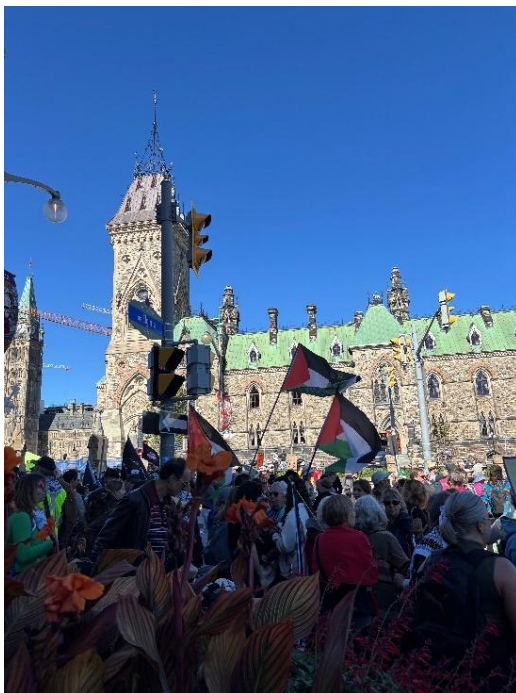
グローバル教養学環 2年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2025年12月

カナダに到着してから早くも1ヶ月半が経過しました。私が留学しているカナダの首都、オタワでは日本人に会うことは滅多になく、自分の英語を磨くのに本当に良い環境だなと感じています。日本とは違い、オタワには様々なバックグラウンドを持った人々がおり、日本では経験できないような環境で毎日生活しています。また、オタワの人々はフレンドリーで優しい人が多く、初対面の人でもすぐに仲良くなることができ、とても居心地が良いです。さらに、英語が第一言語ではなく、幼いころに苦労したという人々も多いため、英語が完璧ではない私に対して、単語の使い方や話している途中の文法のミスなど、多くのことを丁寧に教えてくれます。そのため、日々の生活の中で英語を使うことが楽しくなり、少しずつ自信を持って話せるようになってきています。

9月から授業が始まりました。私は、ESLAという週二回、英語が母国語ではない学生のみを対象とした少人数制の授業、Philosophy、Environmental Studiesの3つを履修しています。友人との会話は特に問題ありませんでしたが、授業では先生の説明を聞きながらノートを取る必要があるため、最初は授業内容や先生の説明がまったく理解できず苦労しました。しかし、カールトン大学には授業ごとにTeaching Assistantが配置されており、手厚いサポートを受けることができたため、とても助かりました。そのおかげで、徐々に授業内容を理解できるようになり、自分の考えを英語で表現することにも挑戦できています。

留学が始まり、私は主体性を身に付けることができたと感じています。どんなに知らない人でも自分から話しかけて仲良くなるようになり、オタワでは様々なイベントが頻繁に行われているため、自ら積極的に参加することで多くの経験を積むことができます。特に、英語を話す機会を自ら作りに行っている自分に成長を実感しています。



リーズ大学（イギリス）

文学部社会学科 2年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2026年6月



リーズに着いてから2週間ほどが経ちました。一人で海外に渡ること自体、私にとっては初めてで、日本を出発してから数日間は、異国の地での初めての一人暮らしに不安やホームシックにさいなまれていましたが、2週間が経った今、ようやくここでの生活に慣れてきました。珍しく晴れの日が続いていて、まだ雨には悩まされていません。気温の面でも過ごしやすいです。キャンパスにはリスやウサギがいたり、自然豊かで、なおかつ活気あふれるリーズの街は、留学生活を送るのに最適な場所だと感じます。

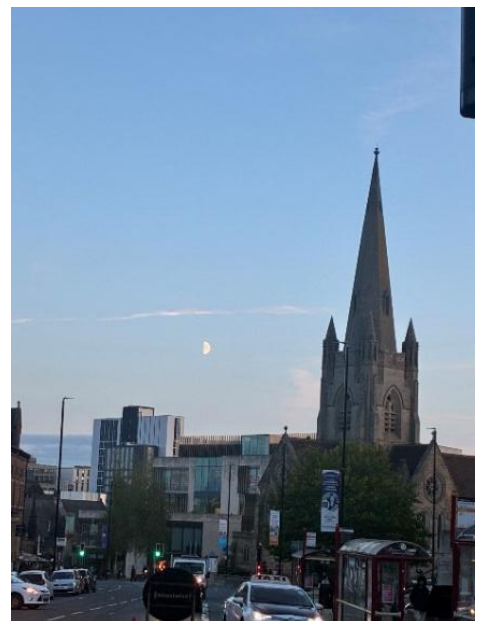
この2週間は、大学や寮の新歓イベントに参加したり、フラットメイトやその友だちと交流したりして主に時間を過ごしまし

た。リーズ大学はクラブの種類がとても豊富で、日本にはあまりないようなコアなクラブもあり、新歓イベントも楽しんで参加できました。私はK-popのダンスクラブとアジアソサエティーに入ることにしました。活動は始まっていないのですが、新歓イベントに参加して、遠く離れたイギリスにも、自分と同じものを好きな人がいて、それを共有できる喜びや楽しさを感じられて、やっぱり勇気を出して留学してよかったと感じています。

ここに来てから初対面の人と会話するのも、以前より得意になったように感じます。私のフラットメイトは私の他に3人いて、1人はスペインから、2人はイギリスから来た学生でした。イギリスから来たフラットメイト2人とは、私の英語力不足もあり、まだ思うようにコミュニケーションを取ることは出来ないのですが、片言の英語でもなんとか意味は伝わりますし、笑顔で接することや相手と話そうとする姿勢が大事だなと感じています。スペインから来たフラットメイトとは、お互い英語が第二言語ということもあり、割と気楽にフレンドリーに交流することが出来ています。先週末には、そのフラットメイトと、そこから繋がった違う寮のフラットメイト達と、リーズから電車で30分ほどのヨークという街を訪れました。一人では絶対に行けなかったのも、改めて人とのつながりは大事だなと思いました。

留学生と交流すると、政治の話になったり、お互いの文化の話になったり、そういった会話の中で日本にいた時には考えたこともなかったようなトピックについて、興味深い話を聞けたり、自分の無知さに気づいたり、授業以外でも学びが沢山あると感じています。

今週やっと授業が始まり、教授やクラスメイトの話が聞き取れず落ち込むこともありますが、ディスカッションで積極的に発言するクラスメイトに刺激を受け、自信がなくとも拙い英語で発言したり、授業後に分からなかったところを教授に聞いたり、自分自身も積極的に参加するようになりました。生活に慣れてくると自分の中での安全圏が出来てしまうのですが、そこにとどまることなく、さらなる学びや新しい体験に挑戦していきたいと思っています。残りの留学期間では、英語や専攻の社会学について、授業以外でも自主的に勉強したり、クラブの友だちやフラットメイトとの交流を深めていったり、新しいことに挑戦して、経験して、成長していきたいと思っています。



ライプツィヒ大学（ドイツ）

グローバル教養学環 2年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2026年7月



留学生活が始まってからもうすぐ1ヶ月経とうとしている。日々新しい発見と挑戦の連続で、充実した時間を過ごしている。本報告書では、以下の内容に分けてドイツでの生活を報告する。

1. ドイツ留学をして驚いたこと

本来であれば10月から交換留学が始まる予定だったが、私はそれに先立ち、留学生向けの語学講座およびオリエンテーションに参加した。このオリエンテーションには別途費用がかかるが、参加を強くおすすめする。なぜなら、日本人だけでなく、世界各国から来た留学生と交流しながらドイツ語を学ぶことができる、非常に貴重な機会だからだ。

また、ドイツの大学における授業スタイルは、日本の大学とは大きく異なる。例えば、ゲームを取り入れながら正しい文法を使って発音練習を行ったり、ドイツ語での作文に取り組む。さらに、学生には高い主体性が求められ、授業中の積極的な発言が奨励されている。このような学習環境は、語学力だけでなく、自発的に学ぶ姿勢を育むうえでも非常に刺激的だった。

2. ドイツ留学をして嬉しかったこと

ドイツに来てから、日常会話において大きな困難を感じたことはほとんどない。これは、高校時代の留学経験や、大学でのドイツ語学習が大いに役立っていると感じている。しかし一方で、銀行口座の開設手続きや市役所での住民登録など、専門用語が多く使われる場面では、内容を完全に理解することが難しく、自分のドイツ語力が一人で生活するにはまだ不十分であると痛感することもある。今後は、より高度なドイツ語の理解と運用ができるよう、引き続き努力していきたいと考えている。

3. 終わりに

留学生活は基本的に楽しいことが多い一方で、もちろん辛いことも少なくなかった。私自身、初めて学生寮に入居した際、部屋が殺風景で、これから本当に一人で生活していけるのかという不安に襲われ、精神的に落ち込んでしまったことがあった。しかし、その経験を通じて、一人で抱え込まずに友人や周囲の人々を頼り、自分の気持ちを誰かと共有することの大切さを学んだ。この気づきは、私にとって大きな成長の一歩となった。今後も学業だけに偏ることなく、精神的にも成長しながら、残りの留学生生活を充実させていきたいと強く思っている。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった甲南大学の皆様に、心より感謝申し上げます。



東義大学（韓国）

知能情報学部知能情報学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2025年12月

8月末に韓国に来てから約1か月が経ちました。最初は慣れないことも多く少し戸惑いでしたが、今ではかなり韓国での生活にも慣れて楽しく過ごしています。

9月1日から授業が始まり、平日は毎日9時から12時40分まで語学堂で韓国語の授業を受けています。そのほかに「TOPIKⅡ」という韓国語能力試験のための授業を1つ受けています。語学堂の授業はレベル別に3つのクラスに分けられていて、私のクラスには日本のほかに台湾、フランス、ミャンマーから来た学生がいるため、韓国語を学びながら様々な国の文化も学ぶことができ、毎日授業が楽しいです。

また、東義大学では留学生向けにキーホルダー制作や、ハングルのハンコ製作などの文化体験ができるのですが、私はキーホルダーの製作体験をしました。朝鮮時代の男性用の帽子をモチーフにしたキーホルダーで、帽子の形をした土台に自分でキラキラを貼り付けて作るのですが、友達と話しながら楽しく、そして簡単に作ることができました。最後に職員さんがコーティングをして下さり、金具や帽子のひもの部分になるビーズなども付けて下さるため、完成品はとても可愛く、満足のいく体験になりました。キーホルダー制作以外の文化体験があと3つあるので、留学中にすべて体験してみようと思います。

休日は、様々な観光地に行ったり、ショッピングをして過ごしています。9月17日から26日まで釜山国際映画祭が開催されており、映画の上映会やトークショーなどが行われていました。野外ステージのトークショーは誰でも見ることもできたので、日本や韓国の俳優さんをたくさん見ることができました。映画の上映会では日本の作品の一つ観たのですが、韓国語と英語の字幕がついていたので、韓国語の勉強にもなりました。映画祭に行ったことがなかったので、留学中に貴重な体験をすることができ、思い出がひとつ増えました。

残りの3か月も、しっかりと勉強に取り組み、遊びも全力で楽しんで後悔のない留学生活にしたいと思います。





釜山に留学に来て、約1ヶ月半が経ちました。日本にいた頃は毎日同じような生活を送っていましたが、留学生活が始まってからは毎日毎日異なることや新しい経験をしており、この1ヶ月半はとても短かったように感じます。

また、寮での生活や人間関係などに悩むこともあるかと思っていましたが、日常生活で特に困ったこともなく、この1ヶ月半だけでも、とても充実した環境にいると感じています。そして、思っていた以上に、日本風の味の食べ物や日本のアニメ、映画などが沢山日常生活の中にあり、日本語の勉強をしている方や日本人の私よりも日本の隅々まで旅行に

行っている方もいたり、韓国国内での日本人気の高さを感じました。大学の語学堂では、現在私が目指している TOPIK のレベルのクラスに入っており、台湾やミャンマー、フランスからきているクラスメイトと一緒に、様々な文化の違いや言語を学ぶため、とても楽しく授業を受けることができます。しかし、知らなかった単語や語彙を韓国語で新しく学んだりする際に、その単語や語彙の説明がうまく理解できなかったりすると、難しく感じることもあります。先生が簡単な単語に置き換えて説明してくれて理解できることがよくあるため、基礎的な単語や文法をしっかり身に着付けること、そして授業の復習が本当に重要だと思いました。

また、この1ヶ月半の留学生活のなかで大事だと思ったことは、何事も積極的な姿勢でいるということです。積極的に外に出て、沢山のひと々と交流することで、今まで育ってきた環境などから、人それぞれに異なる意見があるということを理解し、自分自身の視野を広げることができました。

そして、台湾人の友達を通じて知り合った釜山の高校生たちが、太宗台という海がきれいな場所を案内してくれたり、学科の集まりで仲良くなった友達が美味しいお店に沢山連れて行ってくれたりしました。また、1年に1回開催される釜山国際映画祭にも行きました。そうした中で、困っていると、自然に声をかけて助けてくれる人が多く、韓国の人々の親切さや、日本とは少し違う「温かいお節介」のようなものを感じることができました。

留学期間は残り約2か月半となりましたが、今よりも語学の勉強に励み、今まででできた友達やこれから関わっていく方と沢山コミュニケーションができるように、また、充実した留学生活を送れるように、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。



東義大学（韓国）

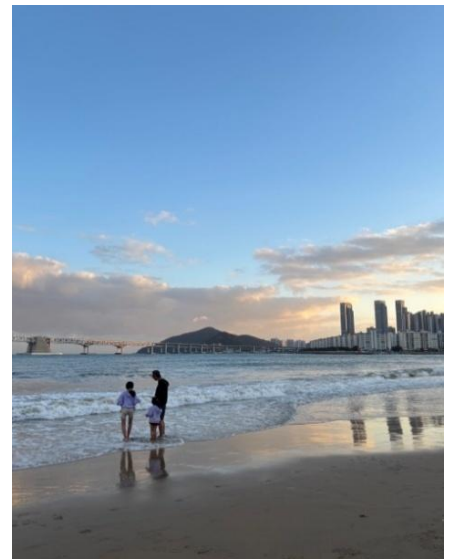
経営学部経営学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2025年12月

韓国に来て約1ヶ月が経ちました。韓国の生活にも慣れてきて、語学堂の授業も楽しめるようになりました。語学堂は多国籍のクラスなので、授業を受ける中で他の国の方々と関わることができました。授業ではペアワークや発表する機会が多々あり、日本人同士でペアを組むのではなく、他の国の方々と組むので、韓国以外の文化や言語も少し学ぶことができました。語学堂は文法や単語を中心としており、会話も少しありますが、私自身もう少し会話をしたいという気持ちがあります。交流の輪を広げるため、国際文化交流サークルに入りました。たくさんの国の方が入っており、新入生のためにウエルカムパーティーをしていただきました。サークルのみなさんは、とても優しく接してくださって加入して良かったと思います。本格的な活動はこれから始まりますが、この機会を自分の成長に繋げていきたいと思います。

9月中旬に釜山で行われた釜山国際映画祭にも行きました。そこでは、韓国の俳優や日本の俳優、監督の方々が映画について話しているのを見ることができました。また、映画も見ましたが映画館ではなく、野外で映画を見ました。日本とは違う映画の見方で少し驚きましたが、とても貴重な体験をすることができました。また、韓国のボードゲームカフェに行きました。韓国のゲームがたくさんあり、教えてもらいながらいろんなゲームをしました。日本人だけでなく韓国人の友達と一緒にだったので、韓国語と日本語を交えながら会話をしました。楽しく遊びながら韓国語の勉強もできたのでとても嬉しかったです。

1ヶ月が過ぎ、感じたことは、自分から行動しなければ何も始まらないということです。どこへ行くにしても何をやるにしても自分が行動しなければ始まらないということを、この1ヶ月の間でとても実感しました。言葉の壁がある中で、クラスメイトに話しかけることや、釜山のいろんな場所に行くことは自分の行動から始まるのだと感じました。私自身、積極的に行動するタイプではありません。ですが、行動するのが怖いからといって何もせずに過ごす時間がとてももったいないと思いました。何事も一歩踏み出すのは勇気がいりますが、勇気を出して積極的に行動していきたいです。また、残りの留学生活でやりたいことを明確にし、実行していけるように頑張りたいと思います。



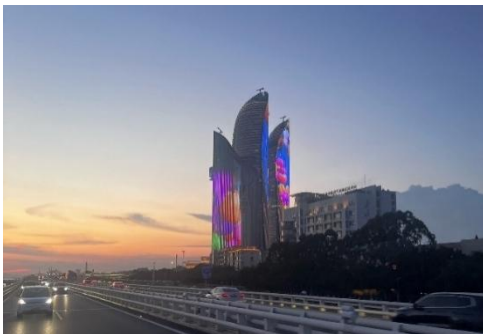
留学生活が始まり、約 1 か月が経ちました。学習面と生活面の 2 つにわけて振り返り、今後の展望について述べたいと思います。

まず学習面についてです。基本的に、授業が一日 2～3 コマ授業があり、1 コマ 100 分(間に 10 分間の休憩があります)です。8 時から 1 時間目の授業が始まります。先生の解説は基本的に中国語なので、予習と復習は必須です。そのおかげで、寮に帰ってから毎日 2～3 時間ほど勉強をする習慣ができました。教科書の新出単語を早めに覚えることを徹底し、空き時間でその日生活してはじめて知った単語や、教科書に書いていないけど授業で初めて知った単語、文法などを軽く復習しています。リーディングの授業では、文章に使われている漢字を見て軽く意味を推測できるので、授業には、ついていけています。スピーキングとリスニングの授業は、覚えている単語であっても、ピンインから漢字や意味が思い出せないものが多いので、もっと中国語に耳を慣らす必要があります。また、単語力だけでなく文法力も弱いので、中国語を話す際に、話している内容が文章になっているか自信がなく、話すことを恐れている節があります。恐れず話すために、もっと文法を磨く必要があると感じました。

次に生活面についてです。私は 1 時間目の授業が多いため基本早起きです。寮での生活は、シャワーなどはじめは慣れないこともありましたが、ルームメイトも日本人のため、問題なく生活できています。9 月中旬まで学校内や留学生としての手続きに追われていましたが、今は落ち着いて過ごせています。普段の会話は基本留学生同士でも中国語で会話し、わからない部分は翻訳や英語を使って会話しています。

生活面で苦労していることは、中国人との会話の機会が少ないことです。まず、現地の中国人の学生と会話をすることは基本的にほとんどありません。よって、中国人と話す機会が、スーパーや食堂の従業員、先生と限られています。なので自ら機会を作りに行く必要があり、イベントやお誘いなどは積極的に参加するようにしています。

今後についてです。学習面では継続して予習復習をし、単語と文法を重点的に復習しようと思います。また、中国人と話す機会が少ないことに関しては、今後部活動やサークルに参加することも視野に入れていきます。私は特にスピーキングやリスニングが苦手なので、中国人に限らず、留学生同士でも恐れず話す機会をたくさん作っていこうと思います。



この日は金曜日で 2 人とも授業がないため、ルームメイトと島の中を観光した後、思明キャンパス(メインキャンパス)に行き、日本語学科の中国人学生とゲームなどをして遊びました。



授業終わりに韓国人 2 人と日本人 2 人で火鍋を食べに行きました。スープが辛かったです。見たことない具材ばかりで新鮮でした。中国の飲食店は基本的にどのお店も安くて、どの料理も辛いです。韓国人の友達は辛いものに慣れているからか平気そうでした。



私たちが普段過ごしているキャンパスの裏に花畑がキレイで有名な山があり、9 月末に日本人全員でひまわりを見に行きました。季節が変わるとまた別の花で一面おおわれているみたいです。9 月時点で日本人は 10 人程度います。

東海大学（台湾）

グローバル教養学環 2年

【交換留学】留学期間：2025年2月～2026年1月

留学が始まってから9か月が経ちました。改めて数えるとその早さに驚きます。中間報告も後半ということで、学習面、生活面について紹介していきたいと思います。

語学面では、留学当初よりかなり成長したと感じます。来たばかりのころは緊張も相まってコンビニの買い物さえかなりぎこちなかったのですが、今は日常会話ならある程度理解できるレベルになったと感じています。ただ、滑らかなコミュニケーションにはスピーキング力や単語がまだまだ課題だと感じます。授業に関しては、前学期は、あまり器用ではないのに科目を登録しすぎてしまい、課題がなかなか追いつかなかったり、自分の時間がかなり少なくなってしまったこともあり、今学期は、午前の中国語の授業以外に、中国語講座1つのみを履修しています。台湾語の授業も申し込んでいたのですが、まさかの人数不足で開講されなかったため、このような時間割になりました。自分の時間が増えるのは良いことなのですが、中国語の授業以外でほかの留学生と喋る機会も少なくなってしまったので、履修登録の良い塩梅というのは難しいと感じます。

台湾生活ですが、便利に過ごすことができます。山間部以外は基本的にバスが通っており、迷子になっても数百メートル歩けばバス停があるので安心です。ですが「早着」という概念がまかり通っておりバスが予定よりも早く出発することが度々あるのには、閉口しています。交通手段がすべて日本よりもかなり安く、交通費で躊躇することがあまりありません。ただ山間部でタクシーを呼べなかったときは最悪で、車だと20分の距離の山道を3時間かけて徒歩で帰ることになります。Uber タクシーには予約機能があるので、田舎に遊びに行く時は絶対に活用してください。

あと、これから台湾への留学を考えている人に伝えたいことがあります。それは食費が決して安いわけではないということです。台湾は外食文化が根強い国です。留学生はほぼ100パーセント3食外食生活になるでしょう。東海大学の学食は1食400～500円はします。朝はコンビニのパン、夜は夜市で済ますにしても意外とかさみ、1日1000円以下で過ごすのは思ったより難しいです。外食文化でコスパがよいと言われているにしては、自炊のほうが安い感じがあります。ちなみに東海大学にはキッチンがありますが、広い寮に1つだけしかなく予約制であるため、使う人はほぼいません。日本にいたままでは決して体験できなかった貴重な経験や気づきが書ききれないほどあります。残りの2か月、噛みしめていきます。



夜市の自取餐廳（自分でおかずを取って
グラム数で値段が決まるタイプの店）
台湾が詰まっている。



夜の教会。良い



華語中心のイベントで顔にペイン
トしたりしてもらったり